

甘トウガラシ（雨よけ）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作 型	○ - - - - △ 											
主な作業		播		定		収	追	切	追		追	収
		種		植		穫	肥	り	肥		肥	穫
						始						終

技術体系

1 作型の特徴

初夏～秋季の適温期に栽培する最も一般的な作型である。温暖を好み、強風に弱い。5月になっての定植が望まれる。果長が 10cm 以上、果重が 20g 以上となるため好適条件下であっても着果負担による草勢低下を定期追肥や適期収穫で防ぎ、収穫を長く維持することが品質収量確保のポイントとなる。

2 適応地域

平坦地域

3 栽培条件

(1) 温度

発芽始めまでは地温 28 ～ 30℃程度、発芽後は昼間 20 ～ 30℃程度、夜間 18 ～ 20℃程度が適地温。生育はピーマン以上に高温を好み気温 25 ～ 30℃が適温。一方、生育後半の低温に対してはかなりよく耐え晩秋まで生育。

(2) 光

多照を好む。育苗、本播ともに新しい被覆資材を用いるようにする。また株が分枝し繁茂してきた時も整枝、剪定により株内部の受光量を確保することが樹勢確保のポイントとなる。

(3) 土壌条件

根はピーマンより繊細で根張りも浅い一方で酸素と水分の要求量が大きいため、保水性と排水性のよい土壌が最適。適 pH は 6.0 ～ 6.5 程度。

4 経営目標

(1) 収 量	3t/10a
(2) 投下労働時間	1,000 時間/10a
(3) 所 得 率	70 %
(4) 経営規模	10 a

(家族労働力 2 人の場合)

栽培技術

1 品種と特徴

「伏見甘長」

果長 10 ～ 12cm で辛味の発生少ない。草勢旺盛で早生の豊産種。分枝性に優れ、中小葉で草姿は中開性。

「松の舞」

果長 12 ～ 15cm で辛味の発生少ない。草勢やや強く早生の豊産 F₁ 種。分枝の発生が多く、中葉で草姿は半開張性

「甘とう美人」

果長 15cm 程度で辛味の発生やや少ない。草勢強めで低温時期の栽培に優れる F₁ 種。分枝の発生はやや多く草姿は中開性。

2 播種と育苗

(1) 播種

育苗日数 70 日程度、晩霜の恐れのない時期の定植を目安とし播種時期を決める。播種土は無病で通気性に優れた資材を用いる。

発芽まで(通常 5 ～ 7 日程度)は地温を 28 ～ 30℃に保ち床土を乾燥させないように適湿に保つ。

(2) 発芽後の管理

地温を昼間 20 ～ 25℃、夜間、18 ～ 20℃とし、床土を乾かしぎみにし立ち枯れ病発生に注意する。

(3) 鉢上げ

本葉2枚時(播種後25～30日)位に保水性のある用土を使い12cmポリポットに鉢上げする。活着後は夜間の地温を徐々に18℃から定植前には14℃位に下げ本ぼの条件に慣らしておく。

(4) 健苗確保の管理

初期収量確保には第一果着果節の低節位化がポイント。軟弱徒長を避けるため鉢と鉢の間隔を葉が触れ合わない位にし受光量を確保。夜温を低めとし、過湿を避け、液肥を施用し軟弱徒長と老化を防ぐ。

3 本圃の準備

(1) 土づくり

水分と酸素の要求量が大きいため、十分な有機物の投入と深耕により保水性と排水性の向上に努める。定植15日以上前に完熟堆肥を10a当り3t以上投入し可能な限り高畦とする。また、ナス科野菜が数年間は作付けされていないほ場で、タバコモザイクウイルスなどの発病歴がないことが望ましい。

(2) 施肥

施肥量 (Kg/10a)

	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基肥	15～25	20～30	15～25	追肥は草勢で調整
追肥	3～5	3～5	3～5	
全量	18～30	23～35	18～30	

基肥は畦立て前までに全面施用し耕うんしておく(畦を立て位置の真ん中に施用すると更に利用率が高まる)。施肥量は、土壌診断結果により加減する。pHの低い場合は苦土石灰を100～120kg/10a程度施用する。

(3) 畦立て

定植10日前以上前までに畦幅150～180cmで畦立てし早めに被覆をして地温を高めておく。特に排水の悪い圃場はできるだけ高畦とする。作業性を考慮するとハウス側窓側や通路の幅は余裕をもって確保することが望ましい。間口5m程度の単棟ハウスの場合、栽植密度を下げて2条畝が省力的。

畝にかん水チューブを設置し黒ポリマルチで表面を被覆、定植の2日前までに十分にかん水しておく。

(4) 定植

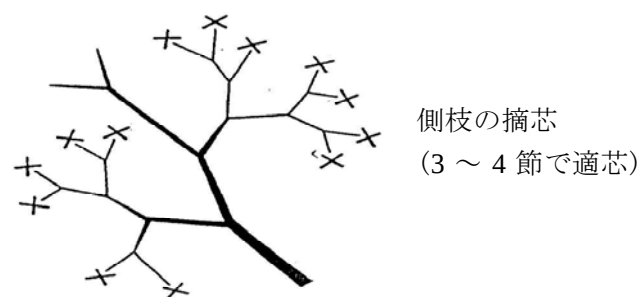
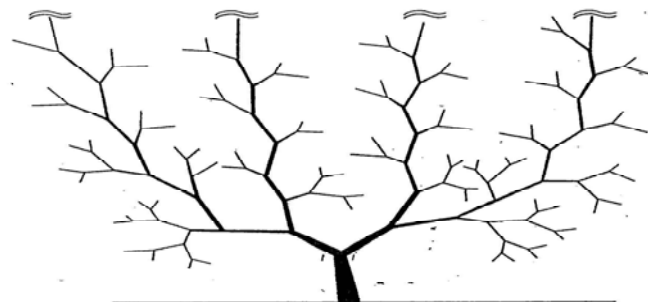
1番花開花直前のステージでの定植とし極端な若苗定植や老化苗定植を避ける。長期収獲を狙うなら株間50cm～60cm程度で1条植(900株/10a程度)を基準とし収獲整理スペースを確保する。定植後は地温・気温の低下に注意し2～3週間は高温(35℃以上で換気)、多湿ぎみにして活着を促進する。

4 本ぼでの管理

(1) 仕立て方法

初期収量確保のため早期に主枝の伸張を確保し、それを適正に配置して株内部の受光確保が重要。第2次分枝の4本を主枝とし、4本仕立てを基本。側枝は3～4節で摘芯、果実収獲後は1節残し除去。無効枝、徒長枝、腋芽の定期的整理を実施する。

4本仕立ての場合



側枝の摘芯
(3～4節で適芯)

(2) 収獲・品質維持

開花後15～22日位で収獲適期となる。隔日収獲とし樹勢を弱めないようにする。果実のしおれを防ぐため早朝収獲し、午前中に調整袋詰めを終える。高温期は天井を30%程度遮光し品質維持に努める。

(3) 灌水・追肥

こまめな灌水・追肥を心掛け、深さ20cmの水分をpF1.4～1.8に維持し、収獲開始の頃から草勢を見ながら、肥効を一定に保つように液肥を実施する。

(4) 更新せん定

7月末頃に10～20節位下の部分まで切り戻すことで長期収獲が可能となる。実施後に十分追肥、灌水を実施すると40日後程度で収獲が再開できる。

5 生理障害と対策

尻腐果：降温対策、多かん水、水溶性Ca灌注

辛味果：降温対策、こまめなかん水と追肥

6 病虫害防除

長期収獲でアザミウマ類等微小害虫、鱗翅目害虫対策が必要。また、白絹病、青枯病等の発生にも注意。早期発見・早期防除を徹底し、耕種的・物理的防除を併用した総合防除対策が肝要。